

園長だより

NO93

朝夕、涼しいとは言えませんがほんのりと秋の訪れを感じます。夏が長い、暑い日が続くこともあり、秋の到来がなく冬が来てしまうと昨今、言われています。夕方、駅までの道のり草むらからコオロギの鳴き声が聞こえてくるとほっとします。子ども達にとって、秋は成長著しい季節、遊んで食べて身体も心も育つ貴重な期間、早く秋がやってきてくれないかと願わずにはいられません。



環境の大切さ

保育園では保育士が日々子ども(子ども達)と向き合い保育がなされている。

8時間から12時間という一日の大半を過ごす。保育士もあれこれと子ども達のことを思い、考え、保育をしている。

保育士も生身の人間です。日々の体調、精神状態において常にベストな状況を保つことは至難の業である。だからといって「人間なもの」と言い訳ができるわけではない。

多くの保育に従事する方は物心ついた頃、保育士になりたいと志したに違いない。専門性を学ぶために養成校(大学)に自ら進んだ経緯がある。夢かなって保育士になっても、現実とのギャップに大きく疲弊した保育士は山のようにいる。子どもの頃にあこがれていた保育士、「いつも笑顔で優しくしてくれる先生、困ったことがあればさりげなく寄り添い、一緒に乗り越えていく手助けをしてくれた先生」



2023.8.30

おそらく多くの保育士がそんな先生に憧れて保育の道に進んだのではないのでしょうか。

県内の著名な園長さんが言っていた言葉が時より頭の中をめぐることがあります。

園長になりたての頃、保育園作りの参考(勉強)のため幾つもの保育園を訪れたという、広大な敷地あり自然環境豊かな保育園、見学先の園長に「豊かな環境があればいい保育ができますね」と伝えたら「保育はムシロ、一枚あればできます。 ※ムシロ わらで編んだ敷物(現代で言えばござ) と言葉を返されたという。それから40数年が経過して一言の心は二つという。

「保育園の子らにとって、環境よりも保育士の方が重要である。」

「保育園で、大人たちが何かさせるよりも、どうやるかが大切である」の二つという。

保育は先人たちの時代から「保育は人」と言われている。高価な遊具をそろえたり、人々が唾然とするような園舎を建ててもかかわる大人が目の前の子どもの理解に乏しければ、子どもの育ちは停滞する。

昨今の保育園業界、保育園全般の課題は人の育成にあると言われている。昔から言い続けられているのだが・・・

おおぞら保育園でも同じ課題に向かい合っている。

かかわる大人の感性、感覚の育みが大切と感じる。



環境の大切さ 噛みつき事例から

噛みつき事例から考えてみます。以下は昨年の会議後の私のメモより引用します。

噛みつきの詳細は記述しませんが園生活の中で噛みつき、ひっかき等の行為はゼロになることはありません。 ※ゼロに近づける努力は継続しています。

噛みつきやひっかきは多くの場合、子どもの不安、フラストレーションであると言われていいます。噛みつきは衝動的、突発に起こる印象が強いようですが必ずその要因があると思っています。

子どもの様子に変化しているのであればその要因を探ることが大切、子どもの背景(家庭生活)などに起因することを考えがちだがもう一度、保育士のかかわり、環境の構成などを検証していくことが大切と考える。

その子の発達に応じた玩具、遊具があるのか・遊びの空間は適切か(広さ、人数など)・十分に遊べる時間はあるのか・他児との接触など往々にして保育環境からのストレスが要因であることを忘れてはならない。心地よく遊べる環境・遊びに没頭できる空間と保育士の関りが安定の鍵となる。自分をしっかりと見守ってくれる保育士がいることで子どもは安心していられる。

噛みつき事例から私自身、あれこれと思うことがあり、保育に反映しよりよい方向へ向かうことを願っている。



著名な園長が言っていた「環境よりも保育士の方が重要である。」という言葉もうなずけるものではある。

昨今は保育士も環境の一部とされ人的な環境の大切さが提唱され保育の現場でも意識して取り組んでいるのが現状です。

感性

保育において保育士の存在は子どもの成長に大きく影響します。知識と技術があっても人間性も要求されます。

子どもとの生活の質は大人の感性により左右されるとも言われる。感性とは何かをみたり、聞いたりした時、深く心に感じることや感覚的に物事や事象に対して感じたことを表すこととも言われる。人の気持ちを感じたり、その場の空気感をよみ適切に場に応じた対応ができる源になると考えています。私自身も感性がさびつき、感覚のマヒなのかと言われるぐらいに感性が乏しくなっている。

周りの刺激に対して柔軟に応じられるように意識しなくてはなりません。保育においても固定概念にとらわれず幾つものみかたで物事を柔軟にとらえることが大切です。

保育とは子ども達の理解から始まり、日々の応答的なやりとりで成り立っている。

もう一度、子どものことをわかり、保育環境の構成に携わらなければいけないと思っています。

(おおぞら保育園 園長廣部信隆)